

ポーランド アダム・ミツキエヴィチ大学 2000年度機関報告

中西 恭子

1. 機関概要

所属 新文献学部 東洋学科 日本学専攻
 設立 1987年
 制度 5年制修士課程 隔年募集（近々毎年募集になる予定） 10月開講
 入試 受験資格：高校卒業試験合格者
 試験：外国語2つ（筆記・口頭）／ポーランド語（口頭）／面接
 代表者 アルフレッド・F・マイエヴィチ教授
 教員数 ポーランド人 7名／日本人 4名
 学生数 2001年 6月現在
 2年生 12名／4年生 9名（うち4名は2000年10月から1年間日本留学中）

2. 留学状況（2000年度）

文部省日本語・日本文化研究留学生 4名／文部省研究生 4名

3. 進路状況

日系企業、国内の大学の講師、通訳・翻訳業、国内企業、欧州にある企業 その他

4. 学生の興味ある分野

オノマトペ、敬語、文学作品の翻訳・作家論、明治～現代の日本歴史、茶道、能、演劇、現代映画、漫画、民謡、ファッションとデザイン、日本の模様、やくざ、女性学、社会学

5. 履修科目一覧表（年時間数 1時間=45分）

学年	科目名	年時間数	学年	科目名	年時間数	学年	科目名	年時間数
1	日本語演習	390	2	日本語演習	390	3	日本語演習	360
	漢字	120		漢字	150		漢字	120
	日本語記述文法	30		日本語記述文法	30		日本語古典文法	60
	日本文学史	15		日本文学史	60		翻訳	90
	日本事情	30		日本史	60		日本文学・文化史	30
	言語学入門	30		情報処理入門	30		卒論ゼミ	30
	日本史	15		翻訳入門	30		特別講義	30
	論理学	30		印・欧語	120		印・欧語	120
	現代哲学	60		第2東洋語	120		第2東洋語	120
	印・欧語	120		体育	60			
	第2東洋語	15						
	ロシア語	60						
	体育	60						
4	日本語演習	360	5	日本語演習	180			
	漢字	90		漢字	60			
	翻訳	120		翻訳	45			
	卒論ゼミ	60		卒論ゼミ	60			
	特別講義	60		特別講義	60			
	印・欧語	120		印・欧語	30			
	第2東洋語	120		第2東洋語	30			

6. 教材 (2000 年度) *日本語演習*

- 2 学年 ・『総合日本語 初級から中級へ』続いて『総合日本語中級』凡人社
・読解自作教材 ・作文自作教材 ・会話自作教材
・『中級からの日本語 読解中心』新典社 ・『中級 日本語』東外大
・『ヤンさんと日本の人々』 ・『毎日の聞き取り 50日 上』
- 4 学年 ・『過渡期の「日本」を考える』凡人社
・『生きた素材で学ぶ中級から上級への日本語』The Japan Times
・読解自作教材 ・聴解自作教材 ・『どんな時どう使う日本語文型 500』アルク
・『日本語能力試験 1・2 級問題集』凡人社

7. 授業内容 (2000 年度) *日本語演習*

2 学年

文法

教科書本文の音読、文型・語彙の解説、文型練習、会話文練習、本文の内容に関する
質疑応答、漢字の読みの復習テスト

読解

自作教材の本文に関する話題での会話、音読、設問の答え合わせ、語句解説、
本文中の慣用句・文型の解説、応用練習

作文

前期：日本語作文の基礎、手紙・年賀状の書き方、テーマ作文など
後期：「比較」「引用」「図表を読む」「意見を述べる」など機能別の作文技術を学習

会話

ロールプレイ練習。文型・語彙の導入、説明。会話例の練習+応用練習。聴解練習。

漢字

既習漢字のテストと復習、新出漢字と熟語の導入 (以下、各学年とも同じ)

4 学年

文法

前期：文部省留学試験対策 後期：日本語能力試験 1 級文法の学習

読解

自作教材の本文に関する話題での会話、音読、設問の答え合わせ、語句解説、
本文中の慣用句・文型の解説、応用練習

聴解

日本のテレビドラマ視聴。語彙の聞き取り、表現文型の学習。内容について分析、討論。
インターネットで収集した資料に基づく討論。日本のテレビ番組の聴解練習。映画鑑賞。

8. 今後の課題

ポーランドにおける日本語学習熱は近年ますます高まりを見せ、それは急増している入学志願者の数にも顕著に表れている。日本については従来から武道や歌舞伎・生け花などの伝統文化や映画等を通じて断片的に知られていたが、最近では近・現代文学の翻訳や漫画雑誌の出版が相次ぎ、またテレビで日本についての番組が放送されるなど、日常の中で現代の日本に関する情報を得る機会が増えたことで、人々の間に日本に対する関心が高まってきた。そのような中、日本語・日本文化を総合的に専門に研究する場として国内にある 3 箇所の日本文科の一つである本学科に寄せられる期待は大きい。設立 14 年目を迎え、人材面でも教材・設備面でも以前に比べかなり前進した。卒業生が本学科に就職し博士課程に進み、また日本に研究留学するなど、日本語教育の現地側の体制も基盤が堅固になって来ている。前述したように近々毎年募集にして学科の拡大を図ることで、急増する日本語学習希望者の需要に応え、かつ人材の育成や教師陣の自己研鑽を通して、日本語教育の質の向上と学科の更なる発展を目指すことが今後の課題である。

また、日本企業の進出などにより、本大学が所在する都市はポーランドで 2 番目に在住日本人の多い都市となっており、学生と彼ら日本人が接する場を作り出してゆくことも、海外での日本語教育の困難な部分を補う有効な方策であり、その点も今後推進していくことが望まれる。